

## 手の外科グループ紹介

手の外科とは、肘から指先までのケガの治療、しびれや麻痺、変形に対する治療、マイクロサージャリー技術を使った再接着や移植などを含む機能再建、ハンドセラピスト（療法士）と協力しての〈動く手・使える手〉を取り戻すための専門的なりハビリテーションを含めた、医学の分野の呼び名です。

手は、運動と知覚の2面を兼ね備えている部位である事と、小さな容積の中に多彩な組織が詰まっているという解剖学的要素に集約される特殊性を持っています。人類に今日の文化をもたらしたものは脳と直結した手である、とも考えられています。

手の外科においては、これらの組織のひとつひとつを再建することに加えて、これらの運動の調和を保ち、あるいは調和を考えながらの機能を再建する概念、いかにして手の機能を温存するか、また失われた機能があればいかにしてこれを再建するかが常に問われるところとなり、計画性と創造性も要求される手術の分野です。

ヒポクラテスの言葉に、「医は自然の臣僕であります。」というのがある由であり、治すのは自然の力、神の力であり、医師は治りやすい状態をつくりあげる、という概念に基き、解剖学的修復はもちろん、Atraumaticな操作のもとに癒痕のない修復をめざしています。岡山大学整形外科手の外科グループでは、外傷、骨折の治療に加え、末梢神経拘扼障害、先天性疾患、腫瘍など、手の外科に関する広い分野を取り扱っております。さらに、関節鏡を用いた小侵襲の手術にも積極的に取り組み、患者の負担を出来るだけ少なくする治療に取り組んでいます。

また、最近では形成外科との協力により、より重度の組織損傷例、組織欠損例に対しても積極的な治療を行うことが可能となり、より細かな血行再建、維持を期待できるとともに、美容面での精神的負担を和らげることが可能となってきています。



手根管症候群による母指球萎縮

鏡視下手根管開放術（ECTR）



右示指切断、中指屈筋腱損傷

示指再接着、中指屈筋腱縫合術後



屈筋腱損傷後の早期リハビリ療法